特集 まちづくりの現場から

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために、町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを毎月シリーズで紹介するものです。
今月は、「少年海外体験学習事業の取り組み」の現場からお届けします。

国際社会で活躍できる人材を育成する

グローバリゼーションが急速に進展する今日の国際社会では、文化、政治、経済など様々な面において国境を越えた交流が活発化し、相互依存関係がますます深まっています。こうした中で我が国が存在感を高めていくためには、これまで培ってきた教育、科学技術、文化などの力を広く国際社会に発信していくことが重要です。このためには、国際社会で活躍できる人材の育成と海外の優秀な学生などの受入れによる双方向の人的交流を活性化させ、新たな価値を生み出すことができる想像力、更には国際社会で自らの考えを積極的に発信する能力を養うことが重要です。

上毛町では、第1次総合計画に「学校教育の充実と国際交流の推進」を掲げ、国際的な視野にたった国際人を育成するため、旧新吉富村は平成2年度から、旧大平村は平成9年度から「少年海外体験学習事業」(友好の翼)を実施し、これまでに645名の小中学生が参加しています。

事業内容については、毎年度開催される上毛町国際交流推進協議会※において、国際感覚を身につけた人材の育成が効果的に行われているのか、安全性は確保されているのかなど十分審議し、決定しています。

平成28年度についても様々な場面で国際交流を推進し、グローバル化する社会に対応した人材の育成に努めています。

※上毛町国際交流推進協議会は、次の構成員で組織され、外国語教育の充実と国際感覚を身につけた人材の育成を図り、国際交流を推進することを目的に設置され、国際交流に係る諸事業の審議を行います。

構成員　町長、議会議長、教育委員長、教育長、小中学校長、PTA会長、子ども会育成会会長、自治会長会会長、学識経験者

アジア諸国の中で最も親日国 ― タイ バンコク

タイ王国と日本は600年以上にわたる交流の歴史をもち、アジア諸国の中で最も親日国です。タイ王室と日本皇室の関係は良好で、両国は非常に良好な友好関係にあります。また、タイ王国への入国者のうち、日本人の入国者数が世界第1位です。一方、タイ王国から日本への入国者数は東南アジア地域で第1位、世界的にみても第6位です。

少年海外体験学習事業の研修先については、これまでニュージーランドやオーストラリアなど4カ国へ研修に行き、現地の小学生との交流や一般家庭でのホームステイ、文化施設などの視察研修を行ってきました。平成27年度からはアジア諸国に目を向け、研修先をタイ バンコクに変更し、交流事業を行いました。

みなさんは、タイという国にどういった印象をお持ちでしょうか。おそらく、まだ発展途上国というイメージが強いのではないでしょうか。

バンコクは近年、急速に近代化が進み、BTS(高架鉄道)や地下鉄などの交通網が整備され、ショッピングセンターや高層ビルも続々と建設されています。そして、現在も建設は継続されており、ものすごい勢いで開発が進んでいます。また、学校教育、医療の分野においても、日本のレベルに匹敵します。少なくともタイの首都であるバンコク都は日本の首都である東京都に匹敵する都市です。一方、昔ながらの変わらぬ風景も残っており、エネルギッシュで活気があります。

平成27年度から交流をスタートしたチュラロンコーン大学附属小学校は、1917年に設立されたタイ王国において最も古い歴史を持つ権威ある国立大学の付属小学校です。国立大学は現在、学部数15、学生総数18460人で、タイ最大の総合大学であり、多数の研究施設を抱える非常にレベルの高い大学です。日本では、東京大学、京都大学、九州大学をはじめとする大学と協定を締結し、留学などの交流が活発に行われています。

また、タイには、日本から様々な企業が進出しています。上毛町に所在する企業でいえば、日本プラスト(株)、日立オートモティブシステムズ(株)、九洲永田工業(株)などが、現地工場を設立しており、上毛町出身の方が駐在しています。将来、子どもたちが成長して働き始めると、仕事のパートナーとしてアジア諸国の存在が重要になります。現地工場に駐在している上毛町の人から現地の様子を身近に聴くことで、タイの国民性などを知ることができます。

平成28年度においても交流先をタイ バンコクに決定し、事業を展開していきます。詳細は広報5ページの「平成28年度バンコク友好の翼研修生募集」をご覧ください。

平成27年度の少年海外体験学習事業「バンコク友好の翼」の取り組み

研修先をタイ バンコクとした平成27年度は、学校交流の相手にチュラロンコーン大学附属小学校と様々な内容の交流を行いました。

5月に町内小学校6年生を対象に参加団員を募集し、面接を経て19名の児童が団員に決定しました。

事前研修 ～バンコク出発に向けて～

タイ バンコクでの本研修に向けて、渡航にあたっての注意、タイの文化・生活習慣・外国語などを全6回の事前研修を通して学びました。また、参加団員との交流を深めることで仲間意識を高めました。

6月4日、結団式、第1回の研修を行いました。団員の班編制・役割分担を行い、それぞれ自己紹介をしました。そして、今後、団員は日本の代表として、自覚をもって研修に臨むことを約束しました。その後、ALTのテッサ氏による英語授業を行いました。

7月24、25日第4回の研修では、コミュニケーション能力や文化・生活習慣に関する知識、マナーなどを習得するため、慶応アカデミーの外国人講師と共に「京築ふれあいの家」に宿泊しながら学習しました。

6月20日、7月11日に行った第2、3回の研修では、立命館アジア太平洋大学のタイ人留学生10名を講師として、タイ語を学習しながらタイの文化や生活習慣を学びました。

8月4日、第5回の研修では、バンコクの訪問先についての学習をしました。タイの地図を使って、宿泊するホテル、訪問する施設の位置関係も確認しました。8月7日の第6回では、タイ国政府観光庁の富松氏からタイ バンコクの歴史・社会事情について学習しました。

本研修 ～バンコク渡航中止～

8月17日(月)、20時30分、バンコク中心部にて爆破事件が発生(タイ時間18時30分)。20名が死亡、123名が負傷するという事件が発生しました。バンコクへ出発する8月18日(火)5時10分、町長以下スタッフが集合し、福岡県バンコク事務所からの情報やインターネット、ニュースなどで得た情報を基に、渡航の是非について協議しました。この時点では爆破事件の原因など、詳細が把握できない状況だったこともあり、子どもたちの安全を第一に考え中止を決定しました。

チュラロンコーン大学附属小訪日

10月5日(月)から10日(土)まで、チュラロンコーン大学附属小学校から5年生22名が上毛町を訪れ、西友枝体験交流センター「ゆいきらら」を拠点に、町内小学校との体験交流や、日本の家庭生活を体験するホームステイ、両国の交流を記念する植樹会、交流会など様々な交流を行いました。

▲南吉富小学校は両国の文化紹介などを取り入れた英語授業を行いました。

▲唐原小学校は綱引きや玉入れなどのスポーツを通じた交流を行いました。

▲西吉富小学校は生け花体験を行いました。

▲友枝小学校では、書道を通して漢字を学びました。

◀バンコク友好の翼団員、立命館アジア太平洋大学留学生らが参加し、交流会が開催され、プレゼント交換やもちつきが行われました。また、友枝神楽講に神楽を披露していただきました。

様々な分野で国際化が進み、一つの国に限らず、世界中の人々と共存することが不可欠な時代です。そして、国際社会においては、子どもたちが日本人としての自覚を持ち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することが大切です。

それには、郷土や日本の歴史、伝統文化や先人の生き方など、過去について学ぶとともに、世界で活躍している人々や最先端の技術などに触れることで、歴史を学び未来を知ることが必要です。こうした歴史と未来をつなぐ学びを通して、自らの生き方を考え、志を持ち、チャレンジ精神にあふれた、世界で活躍できる真の国際人を育てていきます。

町の将来、日本の未来を託していく子どもたちは、家族だけでなく、地域にとっても、社会にとっても大切な存在です。「ひとづくり」である教育は、形として目には見えませんが、将来、上毛町の児童生徒が英語教育や学習、体験活動を通じて、国際社会で大いに活躍することができるよう地域と学校が一体となって、国際交流の取り組みを続けて参ります。

●問い合わせ先　教務課　社会教育係　TEL 72-3111(内線172・173)